

社会起業家

貧困問題

今、挑戦しないのはもったいない。

世界中のネットワークと、未来のキャリアをつなぐ。

GLAキャリア・メンター

KUREHARA
Mayen Ayaka

呉原 マエン郁香 氏
株式会社ボーダレス・ジャパン



1990年、大阪市生まれ。関西学院大学総合政策学部卒業。大学在学中にガーナとグアテマラのNGO/NPOでインターンとして活動したほか、国連ユースボランティア・プログラムに参加しウクライナに長期滞在。株式会社ボーダレス・ジャパンに入社後、バングラデシュの貧困層の雇用の安定を図る「ビジネスレザーファクトリー」の立ち上げに携わり、その後、貧困・教育問題の解決をめざす新事業「MAYSOL」をグアテマラで創業。現在は若手の社会起業家の支援も手掛ける。

私のスタートライン

学生時代、NGOの支援活動に参加するためガーナを訪れました。いくつものアルバイトを掛けもじて30万円ほどの費用を貯め、ようやく実現した渡航でした。しかし現地で言われたのは、「(ここに来るのに)親に金を出してもらったんでしょう」と。自分で稼いだと返せば、「そんなに稼げるなんて日本はいいよね。やれるんだったら俺もやりたいよ」と。事実私がガーナで目にしたのは言葉を失うほどの壮絶な貧困の数々であり、恵まれた環境にあることを少しも自覚していないかった自分を心から恥じました。だからこそ、人々のためにできることは必ず挑戦しよう。この時に感じた思いが私の原点です。

ソーシャルビジネスとの出会い

各国のリアルな現状と課題を自分の目で確かめようと、大学4年次には1年間休学してバックパック一つで世界を巡りました。この旅の途中、グアテマラで出会ったのが現地在住の日本人A氏が手掛けるソーシャルビジネスでした。国際協力の現場で避けては通れないのが「お金の問題」です。一方、海外でのフィールド経験から、個人や団体、行政から資金を集めるファンドレイジングの限界を感じていました。そんな私にとって、雇用を生み出しながら社会課題を解決できるソーシャルビジネスはまさに目からうろこが落ちる発想であり、理想とする持続可能なビジネスモデルだったのです。

貧困の連鎖を断ち切るために、今できること

ボーダレス・ジャパンは、ソーシャルビジネスを通じて社会課題の解決に取り組む社会起業家の集団で、現在15カ国で事業を展開しています。2017年12月、私はグアテマラで新事業「MAYSOL」を立ち上げました。同国では貧困層の多くをへき地に暮らす少数民族が占め、その子どもたちは十分な教育も受けられず、貧困から脱せずにいます。そこで卵を生産する養鶏ビジネスを彼らに委託することで雇用を生み、ここで得た収入で子どもたちを通学させる仕組みを創りました。こうして貧困の連鎖を断ち切り、世界中の子どもたちの将来の選択肢が増える社会にすることをミッションに活動中です。

GLAキャリア・メンターとして伝えたいこと

自由な時間がたくさんある大学時代は重要です。理想とのギャップにぶつかることも、失敗することもあるでしょうが、できることはすべて挑戦してください。そして数多くの可能性の中から道を探り、キャリアを積んでいって欲しいと思います。もちろん企業はじめ、NGO/NPOなどの団体、人脈といった、私がもつ世界中のネットワークで世界と皆さんとをつなぎ、しっかりとバックアップしていきます。私にとって転機となったのは、学生時代にバックパックを担いで訪れたグアテマラでの社会起業家A氏との出会いでした。人との出会いは人生にとても大きな意味をもたらしてくれるものです。そういった中で皆さん、他人事を自分事として受け止め、行動できる人として成長してくれることを願っています。

